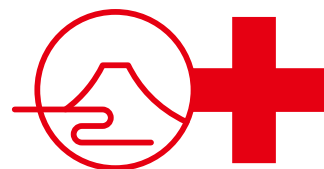


赤十字しずおか'

Japanese Red Cross Society SHIZUOKA



2021
VOL. 130

人間を救うのは、人間だ。



7月1日から大雨は、
熱海市をはじめ、県内各地に大きな被害をもたらしました。
日本赤十字社静岡県支部は、発災直後から関係団体と迅速に連携。
現地で“被災者に寄り添う”活動を行いました。

そこに手を差し伸べたい
人がいた

赤十字の令和3年7月大雨災害における救護活動

行政等と連携した “被災者に寄り添う”活動

7月3日、熱海市伊豆山地区で土石流が発生。

死者26名、行方不明者1名（令和3年9月末現在）、住家被害約130棟など、甚大な被害が生じ、500名以上の方々が避難所生活を余儀なくされました。

日本赤十字社は内閣府との協定に基づき、静岡県の災害対策本部等に「内閣府調査チーム」の要員として職員を2名派遣し、県が行う災害対応の支援を実施しました。また、災害拠点病院である静岡赤十字病院の医師や事務管理要員5名が、県の災害派遣医療チーム（DMAT）調整本部の本部要員として、被災地の医療ニーズの把握や医療活動の調整等にあたりました。

静岡県支部では、被災された方々へ災害救援品を配付するとともに、静岡県からの要請を受けて、避難所に救護班、こころのケア班を派遣し、被災者に寄り添う救護活動を行いました。

1 救護班の派遣

7月4日、伊豆赤十字病院から救護班1班（6名）を派遣し、避難されている51名の方々に、問診など健康状態の確認を行い、2名の診療にあたりました。

2 災害救援品の配付

熱海市をはじめ富士市、沼津市の被災者に日赤各地区を通じて、以下の災害救援品を配付。ホテルが避難所となり、寝具等は備えられていた熱海市では、「特に避難直後は、下着セットのニーズが高かった」との報告が、日赤熱海市地区からありました。

毛布	76枚	タオルセット	386個
緊急セット	38個	下着セット(男女)	858個
プライバシーテント	5張 ※貸出		(令和3年9月末現在)

下着セット▶



3 こころのケア班の派遣

日本赤十字社は、被災者の声に真摯に耳を傾け、一人ひとりの心の状況に応じた支援を行う「こころのケア」を災害救護活動の柱の一つとし、看護師などに研修を行っています。

7月7日～7月31日まで、県内5つの赤十字病院等から派遣したこころのケア班は9班（延べ28名）。避難所となったホテルの居室を巡回し、約250名の被災者を訪問しました。その内66名の方々の、避難生活で抱く不安や悩みに耳を傾けたほか、子ども見守り相談等も行いました。

対応にあたった赤十字看護師は「災害派遣精神医療チーム（DPAT）やDMAT等の専門チーム、保健師と連携して、被災された方々のために何ができるかそれぞれの立場で考え、寄り添いながら活動した」と振り返りました。



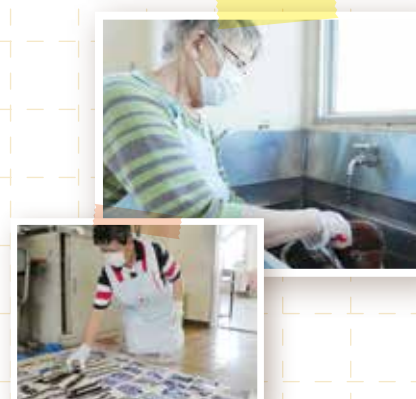
災害時に活躍した “赤十字ボランティア”



◀赤十字ボランティア
についての詳細

1 熱海市赤十字奉仕団の活動

熱海市伊豆山地区で発生した土石流によって、大切な人命や住宅が失われました。そして、たくさんの思い出がつまった品々も被害を受けました。熱海市赤十字奉仕団は、災害現場で回収された写真や手紙等に付着した泥を丁寧に水で洗い流し乾燥させる活動を、「熱海花の会」と共に、7月22日から行っています。ある団員は「すべて誰かの大切な思い出の物なので、丁寧に扱いながら洗浄した。どうか持ち主やご家族の元に戻ってほしい」と述べました。



2 赤十字防災ボランティアの活動

災害時に、日本赤十字社が行う災害救援品の配付や、派遣した救護班への現地の道案内等のサポートも「赤十字防災ボランティア」の活動の一つです。今回の災害では17名の方が、協力くださいました。活動を行った防災ボランティアは、「決して特別なことではなく、誰かのために今、自分にできることを一生懸命取り組んでいるだけです」「活動時に着用するベストに印されたこの“赤十字マーク”は、人々から信頼されるマークであることを改めて感じました。今後も真摯に取り組んでいきたい」と語りました。



今回の救護活動は、県民のみなさまからの活動資金により行うことができました。
ご協力に感謝申し上げます。

寄付に寄せる思い

私の祖父や父が、赤十字への支援を行っており、幼い頃から「寄付による支援」は身近に感じていました。

20年前、沼津市に本社社屋を建設した時に、とても大きな幸せを感じた私は、社会に貢献したいという思いがより一層強くなり、祖父や父のように赤十字への支援を行うようになりました。毎年支援を行う中で、継続することの大切さを感じています。それは、いのちを救う赤十字の活動が、税金ではなく「寄付」で行われているからです。災害が起きた時に、救護班の派遣や救援品の配付、平時のボランティアの活動等は、すべて寄付

によって支えられており、多くの方々の支えがなければ活動を継続することはできません。

また、献血や赤十字病院の運営等、その活動は多岐にわたり、日々患者さんのいのちを救っていることに、感謝の念を抱いています。

より多くの皆さまが、赤十字の活動を知り、理解していただくことで、支援の輪が広がればと願っております。

株式会社三幸コーポレーション
代表取締役社長 齋藤 哲一様



PRESENT!

ハートラちゃん「手ぬぐい」を30名様にプレゼント!

以下を明記の上、WEB・メール・郵送でご応募ください。

- ①お名前 ②郵便番号・ご住所 ③年齢 ④赤十字しずおかVol.130のご意見・ご感想
⑤赤十字しずおかで、今後取り上げてほしい情報

※回覧でご覧いただいた方には、本号を郵送します。ご希望の方は①②を明記の上、「Vol.130希望」とお書きください。
なお、プレゼントのご応募と同時に申し込みたい場合は、①～⑤を明記の上、応募締切日必着をお願いします。

応募方法

WEB



メール



koho@shizuoka.jrc.or.jp

郵送

〒420-0853
静岡市葵区追手町44-17
日本赤十字社静岡県支部 組織振興課



※「手ぬぐい」の色は選べません。

応募締切

令和4年2月28日(月)必着

当選者の発表は、賞品の発送をもって代えさせていただきます。

※収集した個人情報につきましては、個人情報保護法及び日本赤十字社の保有する個人情報保護規程に則り取り扱います。



日本赤十字社

静岡県支部

〒420-0853 静岡市葵区追手町44-17
TEL 054-252-8131 <https://www.jrc.or.jp/chapter/shizuoka/>



この印刷物は、みなさまからいただいた資金で作っています。